

「サーバ更新における方針や課題」と「HCIの活用状況」の関連を分析し、HCI導入提案を成功させるために必要な訴求策を提言

2019年 サーバ更新における方針/課題とHCI導入意向の関連分析レポート

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:	「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒	1ページ
設問項目:	「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒	2～6ページ
本レポートの試読版:	「調査レポートの内容を試し読みしてみたい」⇒	7～10ページ

[調査レポートで得られるメリット]

1. ペイジアンネットワーク分析を用いた分析結果を数表やグラフで確認いただくことができます。
2. 収録されている集計データをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。

調査対象ユーザ企業属性

本調査レポートは「2018年版 中堅・中小企業におけるサーバ/ストレージ活用の実態/予測レポート」に収録されたサーバ更新における方針/課題とHCI(ハイパーコンバインドインフラ)の導入意向などに関するデータに対して、ペイジアンネットワーク分析を適用することによって、HCI市場をさらに拡大するための施策を分析したものである。HCIの活用状況、HCI製品の選定における重視事項、HCI製品における課題といった設問項目を年商、業種、地域、IT管理運用体制などの企業属性を軸として集計したデータは下記の調査レポートに収録されている。

「2018年版 中堅・中小企業におけるサーバ/ストレージ活用の実態/予測レポート」(※)

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rep.pdf

以下では、本調査レポートの分析対象となっているデータのサンプル属性(年商、業種、IT管理/運用の人員規模など)を記載している。(※と属性番号を合わせているため、本調査レポートでは割愛されている属性番号もある点に注意)

有効サンプル数: 608社(有効回答件数)

対象企業/職責: サーバ導入済みの企業、企業の経営に関わるまたはITの導入/選定/運用作業を担う職責、対象地域は日本全国(北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方)

年商区分(A1): 5億円未満(124社) / 5億円以上～50億円未満(135社) / 50億円以上～100億円未満(121社) / 100億円以上～300億円未満(115社) / 300億円以上～500億円未満(113社)

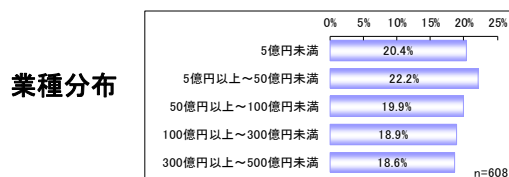
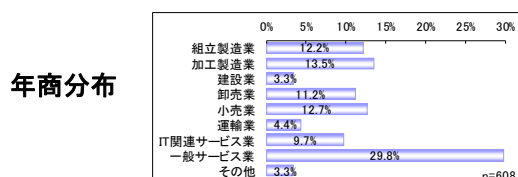
業種区分(A4): 組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 運輸業 / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他

IT管理/運用の人員規模(A5): IT管理/運用を担う人材は専任/兼任のいずれか? 人数は1名/2～5名/6～9名/10名以上のどれに当てはまるか?

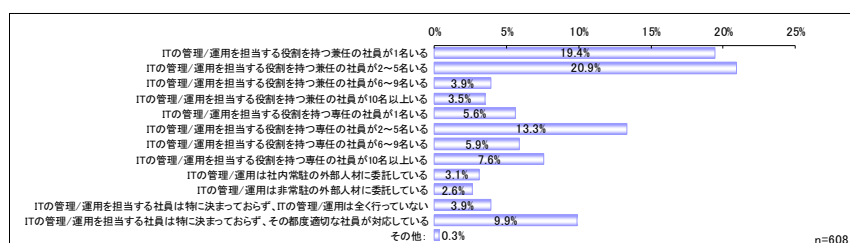
ビジネス拠点の状況(A6): オフィス、営業所、工場などの数は1ヶ所/2～5ヶ所/6ヶ所以上のいずれか? ITインフラ管理は個別/統一管理のどちらか?

調査実施時期: 2018年6月末

以下の3つのグラフは608社の有効サンプルの「年商」「業種」「IT管理/運用の人員規模」分布を表したものである。幅広い属性の企業がサンプルに含まれていることが確認できる。



IT管理/運用の人員規模分布



本調査レポートの位置付けと分析サマリの章構成

HCI(ハイパーコンバージドインフラ)は大企業のみならず、中堅・中小企業においてもDX時代を担うサーバ基盤として引き続き注目を集めている。だが、HCI市場をさらに拡大していくためには、

- 1.クラウドを検討しているユーザ企業にとっても選択肢となり得るのか？
- 2.サーバ仮想化に限らないサーバ関連の課題に対する解決策となるのか？
- 3.垂直統合サーバなど、他のサーバ形態を代替する役割も担っていくのか？

といった今後の展開を適切に見極める必要がある。例えば、HCIを単に「SANと比べて安価なオンプレミスのサーバ仮想化の手段」としてアピールするのか、それとも「クラウドと同レベルの伸縮性をユーザ企業が自ら管理できる環境下に構築する手段」としてアピールするのか？によって、HCI市場がもたらす成果は大きく変わってくる。

ノークリサーチでは「2018年版 中堅・中小企業におけるサーバ/ストレージ活用の実態/予測レポート」においてHCI導入率、HCI製品およびHCI基盤ソフトウェアのベンダシェア、導入における重視事項や課題といった項目を年商、業種、地域などで集計/分析している。

しかし年商、業種、地域などを軸として設定した従来のクロス集計のみでは上記に述べた見極めを行うことは難しい。そこで、本リリースの元となる調査レポートではベイジアンネットワーク分析を用い、「どのような企業を対象に、どのような内容でHCIを訴求すれば良いか？」に関する詳細な分析を行っている。

具体的には、「2018年版 中堅・中小企業におけるサーバ/ストレージ活用の実態/予測レポート」の以下の設問結果にベイジアンネットワーク分析を適用することによって、HCI導入提案を成功に導くための提言を述べている。

H1.HCIの活用状況

S2-4.サーバ更新における今後の方針(複数回答可)

S2-5.サーバ更新における課題(複数回答可)

S2-6.今後、導入したいと考えるサーバの機能や形態(複数回答可)

H5.HCI製品の選定において重視する事項(複数回答可)

H6.HCI製品の課題として考えられる事項(複数回答可)

本調査レポートの分析結果を解説した「分析サマリ」の章構成は以下の通りである。

第1章.本ドキュメントの構成

第2章.本調査レポートの背景

第3章.サーバ更新の方針とHCI導入意向の関連性

第4章.サーバ更新における課題とHCI導入意向の関連性

第5章.今後導入したいと考えるサーバの機能/形態とHCI導入意向の関連性

第6章.HCI製品の選定において重視する事項とHCI導入意向の関連性

第7章.HCI製品の課題として考えられる事項とHCI導入意向の関連性

第1章で「分析サマリ」の構成を述べた後、第2章では「なぜ、ベイジアンネットワーク分析を採用しているのか？」を述べ、本調査レポートの分析手法について詳しく解説している。

その後に続く第3章～第7章では、設問「H1」と設問「S2-4」「S2-5」「S2-6」「H5」「H6」の選択肢との関連を分析することにより、

「サーバ更新における今後の方針」(第3章)

「サーバ更新における課題」(第4章)

「今後、導入したいと考えるサーバの機能や形態」(第5章)

「HCI製品の選定において重視する事項」(第6章)

「HCI製品の課題として考えられる事項」(第7章)

のそれぞれの項目とHCIの活用状況との関連をベイジアンネットワーク分析によって明らかにしている。

設問項目(1/4):

本調査レポートにおける設問項目は以下の通りである。いずれも、与えられた選択肢から回答を選ぶ選択式設問となっている。「複数回答可」と記載されたものは選択肢を複数選ぶことのできる設問を指し、記載がないものは選択肢を1つ選ぶ単一回答設問を指す。

「2018年版 中堅・中小企業におけるサーバ/ストレージ活用の実態/予測レポート」と設問番号を揃えているため、本調査レポートにおける集計/分析の対象となっていない設問項目は割愛されている(例.S1-*, S2-1, S2-2, S2-3, H2, H3, H4など)

S2-4.サーバ更新における今後の方針(複数回答可)

今後の中長期的な視点も含めた時、サーバ更新においてオンプレミスとクラウドのどちらに重点を置くか?を回答する設問である。選択肢は以下の通り。

- ・オンプレミス形態を継続し、サーバ機器のベンダも変更しない
- ・オンプレミス形態を継続するが、サーバ機器のベンダは変更する
- ・クラウド形態へ移行するが、既存ベンダのサービスを採用する
- ・クラウド形態へ移行し、既存ベンダと異なるサービスを採用する
- ・現時点では判断できない

S2-5.サーバ更新における課題(複数回答可)

サーバ更新に取り組む際に課題と考えられる事柄を全て回答する設問である。選択肢は以下のように5つのグループに整理されている。

<<更新時の作業負担に関連する項目>>

- ・最新のOSに変更するためには複数回のバージョンアップ作業が必要になる
- ・業務アプリケーションやミドルウェアの設定を移行する作業の負担が大きい
- ・サーバ仮想化やコンテナ仮想化の環境を移行する作業の負担が大きい
- ・アカウント(ID/パスワード)や権限設定を移行する作業の負担が大きい
- ・サーバ更新を行うための計画を自社で上手く作成することができない

<<データやシステム環境に関連する項目>>

- ・使用されていない無駄なファイルを廃棄したいが、良い方法が見つからない
- ・要注意データ(機密情報や個人情報)を特定する良い方法が見つからない
- ・既存の業務アプリケーションが新しいサーバ機器やOSに対応していない
- ・既存の周辺機器(プリンタなど)が新しいサーバ機器やOSに対応していない

<<更新に伴う仮想化導入に関連する項目>>

- ・サーバ仮想化やコンテナ仮想化を導入したいが、管理/運用ができない
- ・サーバ仮想化やコンテナ仮想化を導入したいが、費用を捻出できない

<<更新に伴うクラウド移行に関連する項目>>

- ・クラウドへ移行したいが、移行計画を推進できる人材が社内にはいない
- ・クラウドへ移行したいが、移行時に必要となる費用を捻出できない
- ・クラウドへ移行したいが、移行後の管理/運用を担うことができない

<<更新に伴うID管理やデータ管理に関連する項目>>

- ・ID管理(Active Directoryなど)を行いたい、管理/運用ができない
- ・ID管理(Active Directoryなど)を行いたい、費用を捻出できない
- ・データの圧縮や容量管理を行いたい、管理/運用ができない
- ・データの圧縮や容量管理を行いたい、費用を捻出できない

<<その他>>

- ・課題と考えられる事柄はない
- ・その他:

次頁へ続く

設問項目(2/4):

S2-6. 今後、導入したいと考えるサーバの機能や形態(複数回答可)

サーバの機能や形態に関する今後のニーズを尋ねる設問である。選択肢にはオンプレミス形態で利用する「サーバ機器」だけでなく、クラウド形態で利用する「サーバサービス」も含まれる。現状のサーバがオンプレミスか、クラウドか？に関係なく、今後利用したいと考える項目を選択する形式となっている。選択肢は以下のように3つのグループに整理されており、各項目の説明も併記している。

<<サーバ機器>>

- ・垂直統合サーバ ストレージやネットワークも含めて1つの筐体にまとめ、最適な設定を施した状態で提供されるサーバ機器
- ・薄型/小型サーバ 店舗や机上などの狭い場所にも設置が可能、かつ業務システムを稼働できる性能を持ったサーバ機器
- ・クラウド基盤アプライアンス パブリッククラウドと同等のシステム開発/運用の基盤を備え、オンプレミスで導入可能なサーバ機器
- ・セキュリティアプライアンス 顔認証や監視カメラ分析など、高度なセキュリティ対策を手軽に導入することのできるサーバ機器
- ・IT管理/運用アプライアンス PC内のデータを圧縮してクラウドに送るなどの高度な運用管理を手軽に導入できるサーバ機器
- ・クラウド移行機能付きサーバ 自身の上で稼働する業務システムを手軽にクラウドへ移行できる仕組みを持つサーバ機器

<<サーバサービス>>

- ・サーバレス/マイクロサービス 特定のデータ処理など、単一の機能をパブリッククラウド上に構築して利用するサービス
- ・サービス利用料金試算ツール 既存の業務システムをクラウドに移行した場合に必要な料金を試算してくれるツール
- ・オンプレミスへの復旧ツール 一旦クラウドに移行した業務システム全体を再度オンプレミスに戻すことのできるツール

<<共通する項目>>

- ・仮想プライベートネットワーク データセンタ内のサーバがあたかも自社のLAN内にあるかのように扱えるネットワーク接続サービス
- ・サーバ構成管理ツール OSやアプリケーションも含めた設定情報を管理し、同じ構成のサーバを手軽に複製できるツール
- ・その他:

設問「H1」「H5」「H6」ではHCI(ハイパーコンバージドインフラ)の活用状況、HCI製品の選定において重視する事項、HCI製品の課題として考えられる事項について尋ねている。

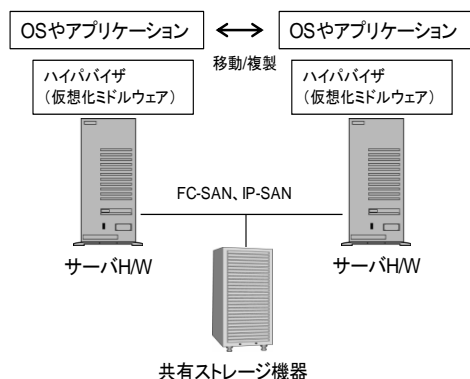
ユーザ企業に対する調査に際しては、以下のような解説を提示した上で上記に述べた諸点について尋ねている。

[HCIに関する解説]

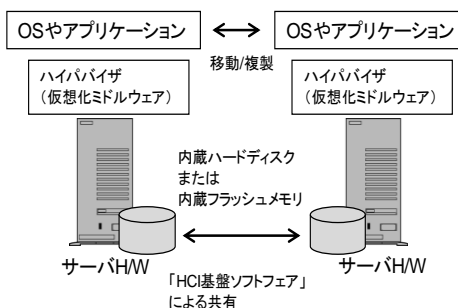
従来のサーバ仮想化では下図の左側のように、FC-SANやIP-SANなどの高度なネットワークを構築し、複数のサーバ機器から共有されるストレージ環境が必要となっていた。しかし、現在では下図の右側のようにサーバ機器に内蔵されたハードディスクやフラッシュメモリをソフトウェアで共有することでサーバ仮想化に必要なストレージ環境を構築できるようになってきている。後者の仕組みは「HCI(ハイパーコンバージドインフラ)」と呼ばれ、サーバ仮想化活用の敷居を下げる有効な手段として注目を集めている。

また、下図の右側においてサーバ機器に内蔵されたハードディスクやフラッシュメモリを共有する役割を担うソフトウェアを本調査レポートでは「HCI基盤ソフトウェア」と呼ぶ。このように、「HCI(ハイパーコンバージドインフラ)」は「サーバ機器」と「HCI基盤ソフトウェア」の組み合わせによって構成されている。

従来一般的なサーバ仮想化構成



ハイパーコンバージドインフラによる構成



設問項目 (3/4) :

前頁の内容を踏まえた上で、本調査レポートでは以下の設問「H1」「H5」「H6」を分析対象としている。

H1.HCIの活用状況

HCIを導入しているか？あるいは導入予定があるか？などを回答する設問である。選択肢は以下の通り。

- ・既に導入済みである
- ・導入を計画/予定している
- ・導入を検討している
- ・導入は全く考えていない
- ・現時点では判断できない
- ・説明を読んでも理解できない(※)

H5.HCI製品の選定において重視する事項(複数回答可)

HCI製品を選定する際に重視する事柄を回答する設問である。選択肢は以下のように3つのグループに整理されている。本設問は[H1]で(※)以外を回答した場合が対象となる。

<<製品の性能や機能に関連する項目>>

- ・サーバ仮想化で実績のあるHCI基盤ソフトウェアである
- ・サーバベンダ自らHCI基盤ソフトウェアを提供している
- ・HCI基盤ソフトウェアにハイパバイザも同梱されている
- ・サーバ仮想化の管理/運用ツールも同梱されている
- ・サポートしているハイパバイザの種類が豊富である
- ・拡張性の高いストレージ機器としても利用できる
- ・フラッシュメモリをキャッシュとして利用している
- ・フラッシュメモリをデータ格納領域に用いている
- ・高い性能を保証する検証結果が出されている
- ・価格が通常のサーバ機器の2倍未満である
- ・サーバ機器2台の構成から始められる
- ・サーバ機器の構成台数に上限がない

<<導入前の情報提供や支援に関連する項目>>

- ・用途/規模に応じた最適なサーバ構成を提案してくれる
- ・メリットだけでなく、留意点や注意点を説明してくれる
- ・既存のサーバ仮想化環境との違いを説明してくれる
- ・通常のサーバ機器において自社の導入実績がある
- ・業務パッケージの動作実績一覧が公開されている
- ・検証/テストのためのサーバ機器を貸与してくれる
- ・検証/テストのための設備を利用することができる

<<導入後の保守/サポートに関連する項目>>

- ・サーバ機器とHCI基盤ソフトウェアの一括サポート
- ・既存の販社/Sierにも保守/サポートを依頼できる
- ・今後も製品の投入や保守/サポートが継続される

<<その他>>

- ・その他:

設問項目(4/4):

H6.HCI製品の課題として考えられる事項(複数回答可)

HCI製品を活用する上で課題になると考えられる事柄を回答する設問である。選択肢は以下のように2つのグループに整理されている。本設問は[H1]で(※)以外を回答した場合が対象となる。

<<選定や導入における課題>>

- ・通常のサーバ機器と比べて価格が高すぎる
- ・期待した性能を実現できない可能性がある
- ・ユーザ企業における導入実績がまだ少ない
- ・従来のサーバ仮想化より費用負担が大きい
- ・利用したいハイパバイザに対応していない
- ・大規模なサーバ環境には適していない
- ・小規模なサーバ環境には適していない
- ・HCI基盤ソフトウェアの選択が難しい
- ・サーバ機器の選択が難しい

<<運用や保守における課題>>

- ・管理/運用のノウハウがまだ蓄積されていない
- ・既存の販社/SIerが保守/サポートしてくれない
- ・従来のサーバ仮想化より管理/運用が難しい
- ・今後も継続して販売/保守される保証がない
- ・特定のサーバベンダへの依存度が高くなる
- ・従来のサーバ仮想化より拡張性が低い

<<その他>>

- ・その他:

本調査レポートの「分析サマリ」では46ページに渡って、「サーバ更新における方針や課題」と「HCIの活用状況」の関連を分析し、HCI導入提案を成功させるために必要な訴求策について提言を行っている。以下のレポート試読版では、分析サマリの『第2章.本調査レポートの背景』の一部を紹介している。ここでは、本調査レポートで用いているベイジアンネットワーク分析の概要について解説している。

第2章. 本調査レポートの背景

HCI（ハイパーコンバージドインフラ）は大企業のみならず、中堅・中小企業においてもDX時代を担うサーバ基盤として引き続き注目を集めている。だが、HCI市場をさらに拡大していくためには、

1. クラウドを検討しているユーザ企業にとっても選択肢となり得るのか？
2. サーバ仮想化に限らないサーバ関連の課題に対する解決策となるのか？
3. 垂直統合サーバなど、他のサーバ形態を代替する役割も担っていくのか？

といった今後の展開を適切に見極める必要がある。

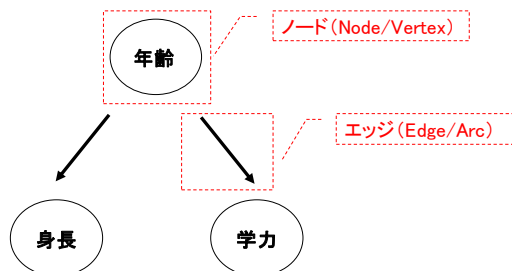
*****中略*****

そのため、今後のサーバ更新における全ての選択肢を俯瞰した形で「クラウドを検討しているユーザ企業にとってもHCIが選択肢となり得るのか？」を知るためには、2つの設問間のクロス集計だけでは限界がある。そこで、本調査レポートにおいて採用している手法がベイジアンネットワーク分析である。

ベイジアンネットワークとは様々な事象（「HCIの活用状況」や「サーバ更新における今後の方針」など）を確率変数と捉え、それぞれの事象を円形のノード(Node/Vertex)、事象間の条件付確率（「HCIを導入済みの場合、サーバ更新における今後の方針がどうなるか」など）に基づく関連性を矢印の形をしたエッジ(Edge/Arc)で表現する確率推論モデルである。

例えば、小学生の「学力」「身長」「年齢」を調査したデータがあったとする。従来通りに項目間のクロス集計を行うと、「身長が高いほど、学力が高い」という結果が得られる場合がある。だが、小学1年生は6年生と比べて身長も学力も低いのは当然だ。つまり、この場合は「年齢」が「身長」と「学力」の双方に影響を与えており、「年齢」が同じであれば「身長」と「学力」には関連性がないという結果が得られるのが自然だろう。

2項目間のクロス集計のみで、3つ以上の項目間の関連性を把握することは容易ではない。一方、ベイジアンネットワークでは複数の項目間の関連性（条件付確率）を元にノードとエッジを形成することによって、どの項目が他のどの項目に影響を与えているかを視覚的に表現できる。上記の場合であればベイジアンネットワークは下図のようになり、「年齢」が「身長」と「学力」に影響を与えていることがノードとエッジによって表現されている。



*****以下、省略*****

「分析サマリ」の第3章～第7章では「サーバ更新における今後の方針」「サーバ更新における課題」「今後、導入したいと考えるサーバの機能や形態」「HCI製品の選定において重視する事項」「HCI製品の課題として考えられる事項」といった様々な観点と「HCI活用状況」との関連をベイジアンネットワーク分析によって明らかにしている。以下のレポート試読版では、分析サマリの『第3章.サーバ更新の方針とHCI導入意向の関連性』の一部を紹介している。

第3章.サーバ更新の方針とHCI導入意向の関連性

本章では設問「S2-4.サーバ更新における今後の方針」と設問「H1.HCIの活用状況」の関連をベイジアンネットワークによって分析した結果について述べる。

本章の分析によって、「クラウドを検討しているユーザ企業にとっても、HCIはサーバ更新における選択肢となり得るのか？」に対する答えを得ることができる。

*****中略*****

設問「S2-4」⇒複数回答設問なので、選択肢毎に以下のノードを設ける

ノード「S241」(0:Noまたは1:Yesの値を取る)

S2-4-1.オンプレミス形態を継続し、サーバ機器のベンダも変更しない

ノード「S242」(0:Noまたは1:Yesの値を取る)

S2-4-2.オンプレミス形態を継続するが、サーバ機器のベンダは変更する

ノード「S242」(0:Noまたは1:Yesの値を取る)

S2-4-3.クラウド形態へ移行するが、既存ベンダのサービスを採用する

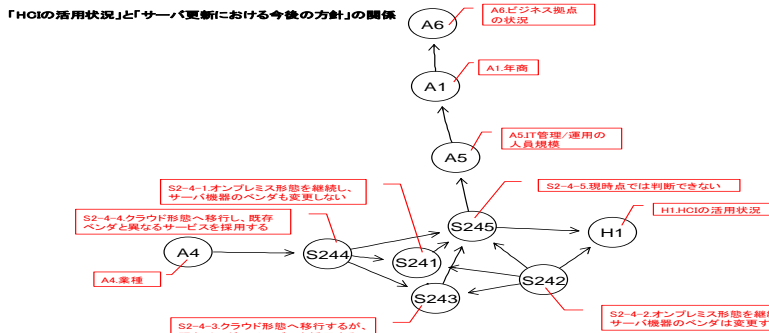
ノード「S242」(0:Noまたは1:Yesの値を取る)

S2-4-4.クラウド形態へ移行し、既存ベンダと異なるサービスを採用する

ノード「S242」(0:Noまたは1:Yesの値を取る)

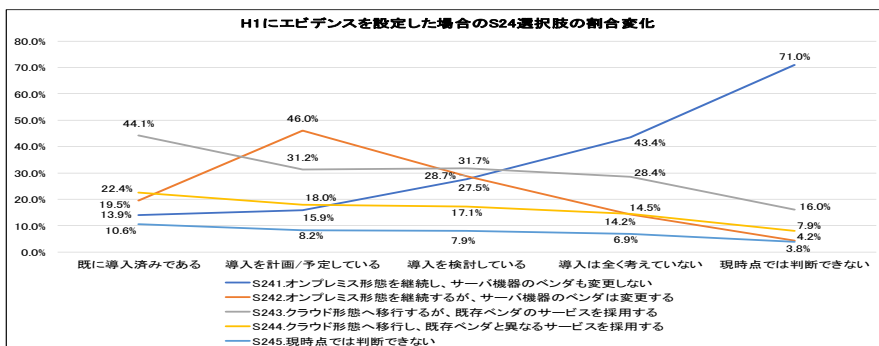
S2-4-5.現時点では判断できない

上記に列挙した設問の回答データ(有効回答件数608社)にベイジアンネットワーク分析を適用し、その結果得られたネットワーク図は以下の通りである。



*****中略*****

ノード「H1」にエビデンスを与えた場合の各ノードの回答割合をグラフにすると、以下のようになる。(集計・分析データ¥BN分析データ1.xlsx [S24設問]シート)



*****以下、省略*****

レポート試読版3(「集計・分析データ」その1)

本調査レポートには以下の3通りの集計・分析データがMicrosoft Excel形式で同梱されている。

「クロス集計データ.xlsx」

設問「H1」を表側とした場合のクロス集計データを収録したファイルである。本調査レポートで採用しているベイジアンネットワーク分析との対比として分析サマリ内で参照されている。

「BN分析データ1.xlsx」

ベイジアンネットワーク分析のうち、設問「H1」(HCIの活用状況)にエビデンスを与えた時に他の設問項目の回答割合がどのように変化するか?の結果データを収録したファイルである。

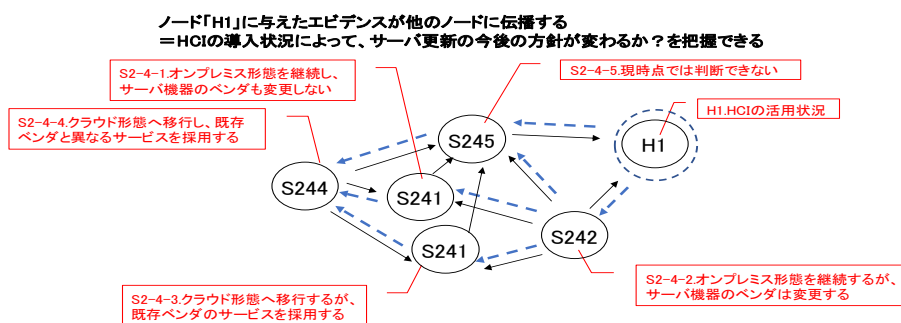
「BN分析データ2.xlsx」

ベイジアンネットワーク分析のうち、様々な設問項目にエビデンスを与えた時に設問「H1」(HCIの活用状況)の回答割合がどのように変化するか?の結果データを収録したファイルである。

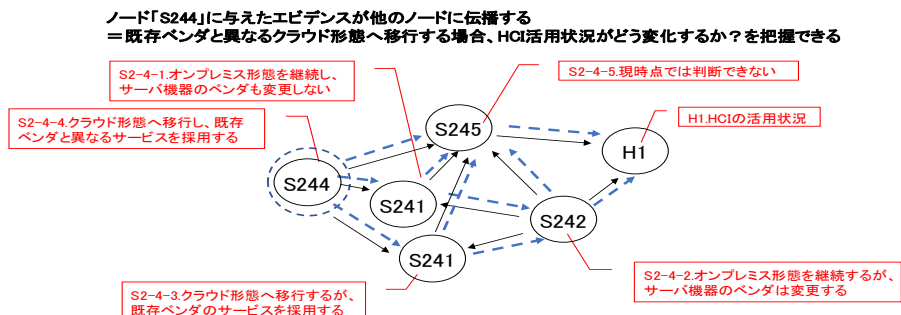
ベイジアンネットワークにはノードとエッジを用いて「どの事象がどの事象に影響しているか?」を視覚的に把握できるというメリットがある。(ノードとエッジの説明については本ドキュメントの7ページを参照)

ベイジアンネットワークのもう一つのメリットが「エビデンス」である。ネットワーク図において、「事象(=ノード)Aの状態がaである」という条件を与えると、それがエッジを介して他の事象(=ノード)へと伝播し、状態が変化していく。これによって「ある事象が起きた場合、他の事象がどう変化するか?」といったある種のシミュレーションを行うことができる。ネットワーク図において、特定ノードに条件を与えることを「エビデンスを与える」と表現する。

例えば、「H1 = 1 (HCIを既に導入済みである)」というエビデンスを与えることによって、「HCIを既に導入済みの企業ではサーバ更新における今後の方針がどうなっているのか?」を選択肢同士の影響も考慮した上で知ることができる。これは従来のクロス集計にたとえると、設問「H1」を軸として設問「S2-4」の結果を集計した場合に相当する。ノード「H1」に与えたエビデンスが他のノードに伝播する様子を図示すると以下ようになる。この結果を数表とグラフで表した結果を収録したファイルが、上記の「BN分析データ1.xlsx」である。



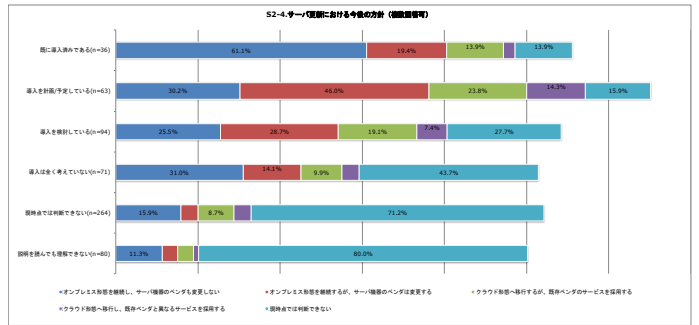
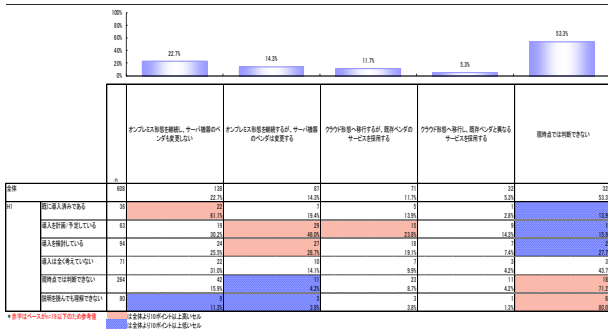
逆に、「S244 = 1 (クラウド形態へ移行し、既存ベンダと異なるサービスを採用する)」というエビデンスを与えた場合にHCIの活用状況がどう変化するか? (ノード「H1」の値がどうなるか?)を確認することもできる。従来のクロス集計にたとえると、これは設問「S2-4」を軸として設問「H1」の結果を集計した場合に相当する。ノード「S244」に与えたエビデンスがノード「H1」に伝播する様子を図示すると以下ようになる。この結果を数表とグラフで表した結果を収録したファイルが、上記の「BN分析データ2.xlsx」である。



レポート試読版4(「集計・分析データ」その2)

前頁で記載した3通りの集計・分析データの具体例を画面ショットで示すと以下ようになる。

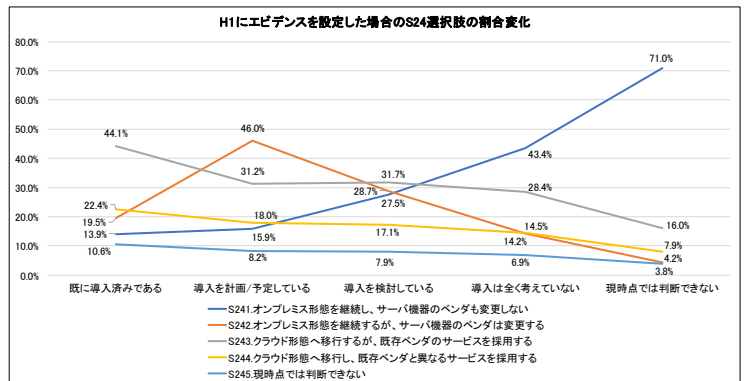
「クロス集計データ.xlsx」の具体例



「BN分析データ1.xlsx」の具体例

H1にエビデンスを設定した場合のS24選択肢の割合変化

H1	S241.オンプレミス形態を継続し、サーバ機器のベンダも変更しない	S242.オンプレミス形態を継続するが、サーバ機器のベンダは変更する	S243.クラウド形態へ移行するが、既存ベンダのサービスを採用する	S244.クラウド形態へ移行し、既存ベンダと異なるサービスを採用する	S245.現時点では判断できない
既に導入済みである	13.9%	19.5%	44.1%	22.4%	10.6%
導入を計画/予定している	15.9%	46.0%	31.2%	18.0%	8.2%
導入を検討している	27.5%	28.7%	31.7%	17.1%	7.9%
導入は全く考えていない	43.4%	14.2%	28.4%	14.5%	6.9%
現時点では判断できない	71.0%	4.2%	16.0%	7.9%	3.8%

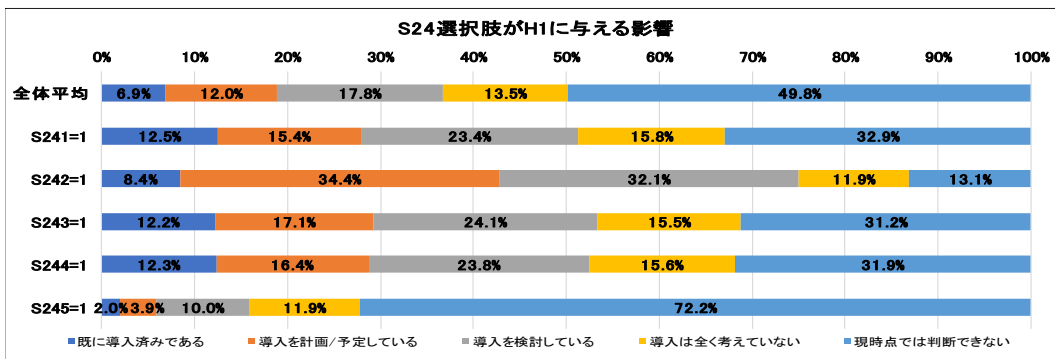


「BN分析データ2.xlsx」の具体例

S24選択肢がH1に与える影響

	既に導入済みである	導入を計画/予定している	導入を検討している	導入は全く考えていない	現時点では判断できない
全体平均	6.9%	12.0%	17.8%	13.5%	49.8%
S241=1	12.5%	15.4%	23.4%	15.8%	32.9%
S242=1	8.4%	34.4%	32.1%	11.9%	13.1%
S243=1	12.2%	17.1%	24.1%	15.5%	31.2%
S244=1	12.3%	16.4%	23.8%	15.6%	31.9%
S245=1	2.0%	3.9%	10.0%	11.9%	72.2%

- S241 S2-4-1.オンプレミス形態を継続し、サーバ機器のベンダも変更しない
- S242 S2-4-2.オンプレミス形態を継続するが、サーバ機器のベンダは変更する
- S243 S2-4-3.クラウド形態へ移行するが、既存ベンダのサービスを採用する
- S244 S2-4-4.クラウド形態へ移行し、既存ベンダと異なるサービスを採用する
- S245 S2-4-5.現時点では判断できない



本調査レポートの価格とご購入のご案内

『2019年サーバ更新における方針/課題とHCI導入意向の関連分析レポート』

「サーバ更新における方針や課題」と「HCIの活用状況」の関連を分析し、HCI導入提案を成功させるために必要な訴求策を提言

【価格】180,000円(税別)

【媒体】CD-ROM(分析サマリ: PDF形式、集計データ: Microsoft Excel形式)

【発刊日】2019年4月8日

【備考】以下のURLより、調査レポートのサンプル/ダイジェストがご覧いただけます

「2019年「サーバ更新の方針や課題」と「ハイパーコンバードインフラ導入意向」の関係」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2019HCI_rel1.pdf

「2019年 ハイパーコンバードインフラの比較対象となるオンプレミスのサーバ形態」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2019HCI_rel2.pdf

【お申込み方法】弊社ホームページからの申し込みまたはinform@norkresearch.co.jp宛にご連絡ください

関連調査レポート

『2018年版 中堅・中小企業におけるサーバ/ストレージ活用の実態/予測レポート』

クラウド普及やOSサポート終了をH/W拡販のチャンスに変える施策とは何か？

【レポートの概要と案内】 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

Windows Server 2008サポート終了に伴う中堅・中小企業の課題と対策

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rel1.pdf

中堅・中小企業におけるサーバ環境(オンプレミス&クラウド)の今後

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rel2.pdf

中堅・中小市場のサーバ環境(OS/形状/ベンダ)シェア動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rel3.pdf

ハイパーコンバードインフラ(HCI)のシェアと活用実態

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rel4.pdf

中堅・中小企業におけるストレージ活用の最新動向と今後の展望

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018Server_user_rel5.pdf

【価格】180,000円(税別)

ご好評いただいているその他の調査レポート(各冊: 180,000円税別)

『2018年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート』

ERP/ 会計/ 生産/ 販売/ 人給/ ワークフロー/ グループウェア/ CRM/ BI・帳票など10分野の導入社数シェアとユーザによる評価を網羅

【レポートの概要と案内】 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_rep.pdf

【サンプル/ダイジェスト】

主要ベンダの刷新/リニューアルで活性化する中堅・中小向けERP市場

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_erp_rel.pdf

販売管理では消費税率改正などによる負担増を見据えた「不満点の解消」が重要

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_sbc_rel.pdf

会計管理では「プライム率」が導入社数シェアの安定的な維持/拡大のカギ

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_acc_rel.pdf

生産管理に求められる取り組みは法規制やIoT活用を見据えた「ソリューション視点」

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_ppc_rel.pdf

給与・人事・勤怠・就業管理にはHR Techを見据えた「新たな役割」が求められる

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_hrw_rel.pdf

CRMでは独自開発システムと同等の柔軟性と価格の両立がシェア維持/拡大のカギ

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_crm_rel.pdf

自動化に向けた取り組みを通じて、ワークフローに求められる新たな役割とは何か？

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_wf_rel.pdf

グループウェア市場は「サイボウズOffice」と「Office365」のシェア首位争いが続く

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_gw_rel.pdf

「分析したデータの視覚化」はBI・帳票における今後の有効な差別化要因

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_bi_rel.pdf

「クラウドだから伸びる」とは限らない文書管理/オンラインストレージ市場

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2018itapp_dm_rel.pdf

【価格】180,000円(税別)

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。
引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本ドキュメントに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高
〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター1705
TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692
inform@norkresearch.co.jp
www.norkresearch.co.jp